

平成23年度
”東オホーツクシーニック
バイウェイルート”活動報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況
2. 活動団体の活動状況及び課題
3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題
5. 平成22年度活動報告への助言に対する状況報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 東オホーツクシーニックバイウェイルート		報告者: 東オホーツクシーニックバイウェイルート 代表 高谷 弘志					2012/3/31		
ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	No	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	総括	
オホーツク海・斜里岳・知床連山・田園風景を美しく見せる (美しい沿道の保全・啓蒙)	小清水原生花園、以久科原生花園の保全 (ネナンシズラの除去等)	-	-	-	-	-	-		
	沿道の一斉清掃活動の実施	1	平成23年度網走湖グリーン作戦	(社)網走市観光協会	平成23年4月23日	約350名 (うち主催者8名)			
		2	美しい景観保全のための清掃事業「道路清掃・春のみぞ口運動」	清里町商工会	平成23年5月14日	190名(主催者9名、 一般参加181名)			
	沿道の植栽活動の実施	3	きよさと花みどりフェスタ2011	清里町花と緑と交流のまちづくり委員会	平成23年6月1日 平成23年9月30日	約300名 (うち主催者15名)			
		4	ウトロ沿道に花を植えよう	しれとこウトロ・フォーラム21	平成23年6月12日	80名(主催者10名、 一般参加70名)	H - 1		
		5	ガードレールの雪かきボランティア	しれとこウトロ・フォーラム21	平成24年1月30日	80名(主催者10名、 一般参加70名)			
	鮮明な四季の色彩を見せる (花の沿道の創出・連携や植物群生の保全)	網走湖周辺の水芭蕉の保全活動	-	-	-	-	-	-	
		花を見る木道づくりの推進	6	美幌みどりの村で「桜祭り」	桜の名所を創る会	平成23年5月15日	30名(主催者9名、 一般参加21名)		事業予算等が少なかったことから、個別による団体活動が中心となった。今後は、活動方針の見直しを図るとともに資金をあまり必要とせずに実現できる取り組みを行ってきたい。
		東オホーツク花カレンダーの作成 東オホーツク花シンポジウムの実施	-	-	-	-	-	-	
	ビューポイントを再発見・創出する	景観探しツアーの実施	-	-	-	-	-	-	
東オホーツクフォトコンテストの実施		-	-	-	-	-	-		
ビューポイントの再発見及び創出とビューポイントマップづくり		-	-	-	-	-	-		
ビューポイントバーキングの拡充と保全		-	-	-	-	-	-		
5		ガードレールの雪かきボランティア	しれとこウトロ・フォーラム21	平成24年1月30日	80名(主催者10名、 一般参加70名)			各方針別の活動内容について、今年度はあまり活動が行われていない状況であるが、ガードレールの除雪実施については、オホーツク産の良好な景観を創ることができると期待されている。費用がかかることではないが、人的な力を必要とするため、今後は、他機関との連携を図りつつ継続的に実施したい。 シーニックデッキの維持管理に関しては、今年度から設置箇所が増えることであるので、今後もよりよい状態で提供できるように、積極的な実施を心がける。	
地域資源の洗い出しマップの作成とバス発掘ツアーの実施	-	-	-	-	-	-			
7	シーニックデッキの維持管理	清里町商工会、NPO法人きよさと観光協会、上斜里フラワーロード推進協議会、清里町花と緑と交流のまちづくり委員会	平成23年4～6月	8名 (主催者8名)					
農・水・林・地域文化資源の発掘と連携	地域特産物の販売やPR活動	8	シーニックマルシェin網走	東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議	平成23年9月11日	約800名 (うち主催者8名)	H - 2		
		8	シーニックマルシェin清里	東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議	平成23年9月17日	約300名 (うち主催者8名)		シーニックマルシェの開催においては、野菜直売所イベントなどの開催により、生産者が直接お客様へ商品をPRできることが大きなメリットであり、売り上げ向上につながるように考える。今回は、農産品だけではなく、東オホーツク内の生鮮品・加工品なども含まれているので、イベントを通して東オホーツクの魅力をPRできたように考える。 地元食材を使った「朝市食業(感動朝市)」は、土・日に行われる横根セリや海産物・農産物が格安で提供される即売会など、観光客だけでなく地元市民にも人気のイベントである。どのイベントにおいても、参加者なども多いことから、継続した活動と連携を積極的に行ってきたい。 地元野菜やご当地産品の販売などが盛んに行われ、東オホーツクの食の資源を活かす活動が定着しつつあるように考える。	
		9	網走感動朝市	(社)網走市観光協会	平成23年7月17日～9月19日	8,433人(主催者8名、 一般参加8,425人)			
		10	地元農家直産 新鮮野菜 秋の味覚・収穫祭!	東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議	平成23年9月3日	約500名 (うち主催者8名)			
	先住民族フォーラムの実施	-	-	-	-	-	-		
	植林事業等の実施	-	-	-	-	-	-		
	楽しみの創出(東オホーツク文化・ライフの追求)	温泉情報マップの作成	-	-	-	-	-	-	
文化施設等との連携による文化発信		-	-	-	-	-	-		
フットバスづくり		-	-	-	-	-	-		
オホーツクバーボンの研究		-	-	-	-	-	-		
外国人交流の実施と誘致		-	-	-	-	-	-		
オホーツクのオリジナル食メニューの研究		-	-	-	-	-	-		
								各方針別の内容が特定な内容が多く、活動がほとんど行えない状況であった。今後は、活動方針の見直しを図るとともに資金をあまり必要とせずに実現できる取り組みを行ってきたい。	

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 東オホーツクシーニックバイウェイルート		報告者: 東オホーツクシーニックバイウェイルート 代表 高谷 弘志					2012/3/31		
ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	No	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況資料番号	総括	
地域連携による地域情報の発信	活動団体向けニュースペーパーの発行	-	-	-	-	-	-	ホームページなどで紹介できるような取組みが多く、各エリアの地域情報や観光情報などを発信することができた。特に方針の内容とは別になるが、メールリストなどを活用して随時活動情報などの発信も行われていることから一定の成果が得られたものと考えられる。	
	HIPの創出と各町観光情報とのリンク	-	-	-	-	-	-		
		11	東オホーツクシーニックバイウェイ活動報告会	東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議	平成24年2月10日	20名(主催者8名、一般参加12名)			
風を感じさせるマグネットポイントの創出	シーニックデッキの創出	12	ウトロポケットパーク	しれとこウトロ・フォーラム21	平成22年4月末～	約1,000名(うち主催者10名)	H - 3 シーニックデッキの設置箇所が増え、本年度は全10箇所となった。また、人の多く集まる道の駅にてデッキを集約し「シーニックマルシェ」を開催したため、シーニックデッキ周知徹底へと繋がった。新たな団体との繋がりがも増え、地域交流(連携)へと繋がることから、今後も継続的に実施を行ってきたい。		
		13	あばしりフロックス公園	東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議	平成23年7月14日～9月2日	約1,000名(うち主催者8名)			
		13	メルヘンの丘(女湯別)	東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議	平成23年4月27日～10月末頃	約8,000名(うち主催者8名)			
		13	芝桜公園	東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議	平成23年4月末～10月末頃	約500名(うち主催者8名)			
		13	カフェアス(峰浜)	東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議	平成23年4月末～10月末頃	約3,000名(うち主催者8名)			
		13	季風クラブ(ウトロ)	東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議	通年	約1,000名(うち主催者8名)			
		13	コスモロード(上斜里)	東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議	平成23年4月28日～10月末頃	約5,000名(うち主催者8名)			
		13	コミット(水元町)	東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議	平成23年4月6日～10月末頃	約2,000名(うち主催者8名)			
		13	斜里登山小屋清巻荘	東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議	平成23年6月13日～10月3日	約1,000名(うち主催者8名)			
		13	浜っこ広場(浜小清水)	東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議	平成23年5月中旬～10月末頃	約3,000名(うち主催者8名)			
		13	蒲湯湖駐車帯	東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議	平成23年8月12日～10月30日	約1,000名(うち主催者8名)			
			流水茶屋、湖畔茶屋、山の茶屋の創出	-	-	-		-	-
			サケ・サクラマスを見れる拠点の創出や清掃	-	-	-		-	-
		観光振興	各地毎の滞在メニューの創出・連携	東オホーツクウォーキングルートの選定とフットバスづくり	14	あばしりガイドウォーク・ツアー		(社)網走市観光協会	平成23年7月9日、23日
ホーストレッキングルートの選定	-			-	-	-	-		
エコツアーの連携や自然探索ツアーの実施	15			知床・オホーツク網走の歴史と文化にふれるエコな旅の実践～EVツアー	(社)網走市観光協会	平成23年8月20日～8月29日 平成23年9月18日～9月23日	28名(主催者8名、ツアー参加者20名)		
	16			翠明の滝 探検ウォーキング	美幌観光物産協会	平成23年5月29日	約100名(うち主催者8名)		
	17			神の子池かんじきウォーキング	東オホーツクガイド協会	平成24年1月20日～3月10日	約100名(うち主催者8名)		
	18			野の花観察ツアー	(社)網走市観光協会	平成23年5月14日、15日、21日、22日	200名(うち主催者8名)		
19	流水ウォーク	NPO法人知床ナチュラルリスト協会	平成24年2月1日～3月31日	約500名(うち主催者8名)					
20	知床ファンタジア2011	NPO法人知床斜里町観光協会、斜里町商工会	平成24年1月28日～3月9日	約40,000名(うち主催者8名)					
東オホーツク型観光の研究	馬やバルーン景観の研究	-	-	-	-	-	農大フットバスは、エリア全体のガイドの育成ではないが、仕組みづくりの部分では、学生など若い世代と一緒に活動した参考となる事業であったと考えられる。エリア全体と考えた際には、地元の良い世代の他に、高齢でもこの地に詳しい自分のノウハウ・経験を生かせるを他企画にも取り入れ、今後もさらなる仕組みづくりを検討してきたい。		
	東オホーツクトラベルの研究	-	-	-	-	-			
	東オホーツク観光塾の創出	-	-	-	-	-			
	東オホーツクエリアガイドの育成と仕組みづくり	14	あばしりガイドウォーク・ツアー	(社)網走市観光協会	平成23年7月9日、23日	約80名(うち主催者8名)			

東オホーツクシーニックバイウェイ

例) TOKACHI Scenic Byway

活動名：ウトロ沿道に花を植えよう

【概要】 良好な沿道景観形成のためとして、国道334号沿いの植樹升に、ペチュニアやサルビアなどの花苗4,500株の植栽を行った。今年度の実施で6回目を迎え、観光関係者や沿道住民の積極的な参画など、地域に密着した活動構成と運用体制についても構築され、回を重ねることに、地域の取り組みとして定着を増してきたように感じる。

【日時】 平成23年6月12日（日）

【場所】 道の駅「うとろ・シリエトク」周辺の国道334沿線上の植樹升（延長約1 km）

【主催】 しれとこウトロ・フォーラム21

【参加人数】 約80名



東オホーツクシーニックバイウェイ

(例) TOKACHI Scenic Byway

活動名：「シーニックマルシェ」in網走、清里

【概要】 シーニックデッキの周知徹底のため、通常設置している数カ所から人の多く集まる箇所（道の駅2箇所）にデッキを集約し、『シーニック・マルシェ』を開催した。地元でとれた野菜や果物、地域特産品などの販売とともに、東オホーツクシーニックバイウェイの取り組みを紹介するパネル展示を行った。

【日時・場所】 平成23年9月11日（日）10：00～14：00「道の駅流水街道網走」
平成23年9月17日（土）10：00～14：00「道の駅パラスランドさつつる」

【主催】 東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議

【参加団体】 網走市観光協会、小清水町観光協会、東藻琴観光協会、清里町商工会、きよさと観光協会、上斜里フラワーロード推進協議会、清里町花と緑と交流のまちづくり委員会、知床斜里町観光協会

【参加人数】 in網走：約800名、in清里：約500名



↑ マルシェin清里



↑ in網走（右上はパネル展示の様子）



東オホーツクシーニックバイウェイ

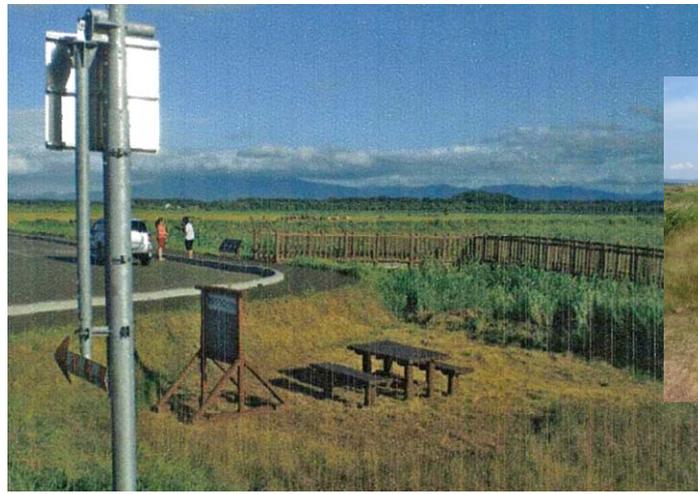
(例) TOKACHI Scenic Byway

活動名：シーニックデッキの創出

- 【概要】 東オホーツクの景観の良い場所にデッキを設置し、ドライブ観光等の旅行者に地域の美しい景観を楽しんでいただくと共に、地域の方々との交流・円滑な道路交通に寄与することを目的に、毎年実施している取り組み。地域の団体が設営から撤去をまでを行うとともに、補修・ペンキ塗りなどの作業、管理を行っている。今年度は、これまでの実施エリア（網走市、大空町、清里町、斜里町）以外に、小清水町等を含め、全10箇所に設置した。
- 【期間】 平成23年4月～10月頃まで（※箇所により設置期間に違い有）
- 【場所】 あばしりフロックス公園（網走市）、メルヘンの丘・芝桜公園（大空町）、カフェパス・季風クラブ（斜里）、コスモスロード・コミット・斜里岳山小屋清岳荘（清里町）、浜っこ広場・濤沸湖駐車帯（小清水町）
- 【主催】 東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議



↑ 地元農家産直の野菜などを販売。デッキを試食コーナーとして活用。



↑ 新たに設置した濤沸湖駐車帯(R244)のデッキ

3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題

ルート名称:東オホーツクシーニックバイウエイルート	報告者:東オホーツクシーニックバイウエイルート 代表 高谷 弘志	報告年月:2012/3/31
---------------------------	----------------------------------	----------------

活動団体

網走市観光協会、オホーツク21世紀を考える会、オホーツクホーストレッキング研究会、北海道立オホーツク公園、東藻琴観光協会、大空町商工会、まちづくりネットワークプロジェクトN5、特定非営利活動法人めまんべつ観光協会、上斜里フラワーロード推進協議会、特定非営利活動法人きよさと観光協会、清里町オーキング同好会、清里町商工会、清里町花と緑と交流のまちづくり委員会、東オホーツクガイド協会、特定非営利活動法人グランドワークこしみず、小清水町観光協会、小清水町商工会、うしろナチュラルクラブ、斜里町商工会、しれとこウトロ・フォーラム21、特定非営利活動法人知床斜里町観光協会、特定非営利活動法人知床ナチュラルリスト協会、Radio Kisar(ラジオキサラ)、東オホーツク美幌あるこう会、美幌観光物産協会、桜の名所を創る会 (計 26団体)



基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
ルート運営代表者会議		● 5/18											
幹事会		● 5/13											
分科会													

ルート名称:東オホーツクシーニックバイウエイルート	報告者:網走開発建設部	報告年月:2012/3/31
---------------------------	-------------	----------------

基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
行政連絡会議の実施													行政連絡会議の実施については、日程調整が不調に終わったため開催出来なかったことから、次年度は他の行政機関と連携して実施計画の組み立てを行い実施したい。

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称:東オホーツクシーニックバイウェイルート		報告者:網走開発建設部	報告年月:2012/3/31					
ルート(エリア)運営活動計画方針	平成23年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No		
景観	オホーツク海・斜里岳・知床連山・田園風景を美しく見せる(美しい沿道の保全・啓蒙)	「平成23年度網走湖クリーン作戦」活動への参加	平成23年4月23日	網走市・網走開発建設部	観光シーズン到来を迎えるにあたり、GWが始まる前に道東観光の拠点網走の玄関口である網走湖沿いの呼人探鳥遊歩道の入口(ミズパシヨウ群生地)から大曲の駐車場(サイクリングロード入口)までの清掃を行った。本活動には350人を超える市民が参加し、網走市役所及び網走開発建設部の職員も清掃に参加した。	これらの活動の多くは、年を経るにつれて、地域イベントとして地元住民等に認知されてきたように感じる。今後とも当部を含めた行政機関の関係職員による積極的な参加体制を構築していきたい。	1	
		美しい景観保全のための清掃事業「道路清掃・春のごみゼロ運動」への参加	平成23年5月14日	清里町	東オホーツクSBW活動団体の連携強化及び景観保全への意識啓蒙を目的として、清里町で参加している活動団体(自治体や女性団体など)が中心となり、清里町役場の関係職員も参加して、町内の中心路線である道道摩周湖斜里線(上斜里～礼弦)の沿道清掃と空き缶拾いを行った。		2	
		メルヘンの丘周辺における清掃活動の実施	平成23年4月27日	大空町・網走開発建設部	本格的な観光シーズン到来を迎えるにあたり、「メルヘンの丘」を訪れる多くの観光客に良好な景観を楽しんでもらうために、大空町役場及び網走開発建設部の関係職員が道の駅「メルヘンの丘めまべつ」及びメルヘンの丘付近のVPP周辺の道路を地域住民とともに清掃活動を実施した。		3	
		国道沿線(斜里町ウトロ地区)に設置している転落防止柵の除雪活動への参加	平成24年1月30日	網走開発建設部	流水の景色を乗用車の車窓からも楽しんでもらうことを目的に地元住民が中心となり、網走開発建設部の関係職員も参加して、斜里町ウトロ地区の沿線に設置されている転落防止柵の除雪活動を行った。		4	
	鮮明な四季の色彩を見せる(花の沿道の創出・連携や植物群生の保全)	道路敷地内における自然植生法面の創出(きたはなプロジェクトによる植栽)活動への参加	平成23年10月27日	網走市・網走開発建設部	地元住民と行政機関との地域協働プロジェクトである「きたはなプロジェクト」の一環として、網走市役所及び網走開発建設部の関係職員も参加して、国道244号網走市北浜の法面等への自生種の移植及び種まきを実施した。本取組の実施前に「種採り」も実施予定であったが、悪天候のため中止するなど、天候に左右される面が大きく関係機関との日程調整が難しい部分があったが、次年度以降についても、継続して取組を行っていききたい。		5	
		VSP活動「ウトロ沿道に花を植えよう」への花苗等の提供	平成23年6月12日	網走開発建設部	網走開発建設部によるVSP(ボランティア・サポート・プログラム)の一環として、SBW活動団体しれとこウトロフォーラム21)の主催により、道の駅「うろ・シリエトク」周辺の一般国道334号沿線の上での植栽活動が行われた。本取組は今年度で6回目を迎え、当日は天候にも恵まれ約80人が参加した。なお、花苗等については、網走開発建設部が提供した。		6	
	ビューポイントを再発見・創出する	★道路敷地内におけるシーニックデッキ設置への協力	平成23年8月12日 平成23年10月30日	網走開発建設部	道路利用者及び観光客等に満ち満ちる望む良好な景観を楽しんでもらうことを目的に、SBW連携会議の取組として国道沿線の駐車場(小清水町浜小清水)付近にシーニックデッキを設置した。本取組の実施にあたっては、網走開発建設部が管理する道路敷地内での設置であったことから道路占用許可申請などの行政手続上の協力をを行った。		7	
		雪山展望台の設置作業への参加	平成23年2月5日 平成23年3月6日	オホーツク総合振興局、釧路自然環境事務所ウトロ自然保護官事務所、北見運輸支局、斜里町、網走開発建設部	雄大な流水景観などを楽しむことができる雪山展望台と駐車場を期間限定で斜里町峰浜地区(GAFE PATH横)に設置した。本取組の実施にあたっては、オホーツク総合振興局と斜里町役場及び網走開発建設部を始めとした行政機関の関係職員も設置作業に参加した。		8	
	地域	農・水・林・地域文化資源の発掘と連携	★シーニック・マルシェの開催協力	道の駅「流水街道網走」(平成23年9月11日)道の駅「ハバサンドさつる」(平成23年9月17日)	網走市・清里町・網走開発建設部		本イベントの実施を通して、来場者に対してSBW活動のPRを行うとともに、活動団体相互の連携強化を図ることを目的に、「流水街道網走」及び「ハバサンドさつる」で、ルート内に点在しているシーニックデッキを1箇所に集め、地域の農水産品や工芸品等の販売を行った。なお、網走市役所、清里町役場及び網走開発建設部として、道の駅の使用許可に関する協力やSBW紹介パネルの貸与等の支援を行った。	9
			★知床S-1グルメバトルの開催協力	平成23年10月23日	斜里町・網走開発建設部		SBWルート団体である知床斜里町観光協会の主催により、道の駅「うろ・シリエトク」構内で本イベントを開催した。斜里町役場及び網走開発建設部の取組としては、道路敷地の使用許可などのイベントの運営協力やSBW紹介パネルの貸与を行った。	10
地域連携による地域情報の発信		地域イベントと連携した秋の知床交通に係る情報発信	平成23年8月14日	斜里町・網走開発建設部	斜里町役場及び網走開発建設部として、知床地区を訪れるドライバーを対象に、道の駅「うろ・シリエトク」及び「しや」にて、オンコンシンの滝や知床五湖、知床峠などの有名な観光地周辺の交通状況等について道路情報提供を行った。また、道の駅利用者に対して、地域協働で行っている路線連絡会議の取組内容について広く周知する目的でこれらの紹介パネルも設置したところ、多くの利用者が立ち寄った。	11		
	東オホーツク・知床エリア「ヒヤリ・ハットマップ」の作成	四半期毎に作成	オホーツク総合振興局、釧路自然環境事務所ウトロ自然保護官事務所、北見運輸支局、斜里町、網走開発建設部	道路利用者に対する車両走行時の注意喚起を促すことを目的に、東オホーツク・知床エリアの「路線連絡会議」構成団体による取組として、当該エリア内の「ヒヤリ・ハットマップ」を作成し、SBWルート内の道の駅や女満別空港付近のレンタカー窓口、観光施設等での配布を行った。なお、「路線連絡会議」構成団体には、東オホーツクSBWの行政連絡会議の構成団体も参加おり、網走開発建設部が中心となって、「ヒヤリ・ハットマップ」を作成した。	12			
観光	各地毎の滞在メニューの創出・連携	「知床ファンタジア2012」に係る運営協力及びHP上への情報掲載	平成24年1月28日 平成24年3月3日	斜里町・網走開発建設部	SBWルート団体である知床斜里町観光協会の主催により、本イベントを開催した。なお、斜里町役場では、イベントの運営協力や現場のHP上に本イベント情報のパネルを張る等の支援活動を行った。網走開発建設部においても、地域イベント情報としてHP上で部内職員への紹介を行った。	13		

※表中「★」は、H23新規に実施した活動

5. 平成22年度活動報告への助言に対する状況報告

ルート名称:東オホーツクシーニックバイウェイルート	報告者:東オホーツクシーニックバイウェイルート 代表 高谷 弘志	報告年月:2012/3/31
---------------------------	----------------------------------	----------------

平成22年度活動報告への助言	平成23年度 状況報告	備考
<p>シーニックバイウェイ北海道の持続的推進を図るため、引き続き情報発信やPR活動等によるブランドの形成、地域への浸透に努めるとともに、地域ビジネスの展開、人材育成等によるルート活動の基盤強化や幅広い関係機関による支援体制の強化に取り組まれない。</p> <p>特に、本格実施から6年が経過し指定ルートも拡大、地域特性に応じた多種多様な成功事例や、課題等も明確になってきていることから、それらを共有しシーニックバイウェイ北海道をさらに活性化させる方策を検討されたい。</p>	<p>●シーニックデッキの利活用による地域連携の新たな形 シーニックデッキの設置箇所は昨年度より増え、全10箇所となった。また、シーニックデッキの周知徹底を目的に、デッキを集約し、地元産の食材・地域特産品の販売、東オホーツクの取り組みを紹介するパネル展を行った「シーニック・マルシェ」を道の駅の2箇所で開催した。これにより、これまで関わりのなかった地元の企業・農家との新たな繋がりができ、地域交流へと繋がったと考える。参加者からも大変好評であったため、今後はよりいっそう参加しやすい仕組み作りを検討し、継続的に実施していきたいと考える。</p> <p>●地域の魅力を伝える“ひと” 当エリアには地域の大きな資源とも言える東京農大があり、その中を周遊するフットパスコースがある。歩くコースの設定・見える地域資源(景観・自然・環境)の案内を学生自らが行う。学生にとっては学業を活かしコミュニケーション能力もできること、地域に愛着を持つことに繋がるメリットがある他、参加者にとっては通常のバックツアーのガイドではない新鮮さと、専門的な話をききながら、地域を身近に感じることができるメリットのある取り組みである。今後は、この仕組みを活かし人の行動(言葉)から人に伝わる仕組みを大切に、エリア全体として行えるような企画検討も行っていきたい。</p> <p>●シーニックバイウェイ北海道の活性化を目指した取り組み 本年度の全道代表者会議にて、観光振興・地域活性化について話題にあがった。このことをうけ、「着地型商品開発セミナー」を全道ルートに提案し、実施した。地域の魅力を単に情報発信するのではなく、商品として観光客や旅行会社に提供することで、地域観光経済の活性化に繋げることが求められていると考えられ、当ルートで考える商品づくりの着眼点、具体的な企画・造成方法などについてをテーマに行った。札幌にて実施したが、全道のルートから総勢40名ほどの参加者が集まった。今回の取り組みは、ルート側から提案、企画、実施となるこれまでにないスタイルの新たな取り組みであったと考える。今後も全道ルートによるテーマを持った情報交換は必要であるように感じるとともに、シーニックバイウェイ全体としての更なる発展を目指し、今後も引き続き実施していきたいと考える。</p>	

ルート名称:東オホーツクシーニックバイウェイルート	報告者:網走開発建設部	報告年月:2012/3/31
---------------------------	-------------	----------------

平成22年度活動報告への助言	平成23年度 状況報告	備考
<p>シーニックバイウェイ北海道の持続的推進を図るため、引き続き情報発信やPR活動等によるブランドの形成、地域への浸透に努めるとともに、地域ビジネスの展開、人材育成等によるルート活動の基盤強化や幅広い関係機関による支援体制の強化に取り組まれない。</p> <p>特に、本格実施から6年が経過し指定ルートも拡大、地域特性に応じた多種多様な成功事例や、課題等も明確になってきていることから、それらを共有しシーニックバイウェイ北海道をさらに活性化させる方策を検討されたい。</p>	<p>東オホーツクシーニックバイウェイに関する支援活動として、女満別空港やオホーツク紋別空港及びルートエリア内の道の駅構内におけるシーニックバイウェイ紹介パネル展を開催し、旅客や道路利用者等に対してルート活動の紹介を行ったほか、春期から夏期にかけて行われる清掃活動や年間を通じて開催される各種地域イベント等へも積極的に参加することで、ルート団体との連携を深めることが出来た。</p> <p>次年度以降についても、上記の事項について継続して取り組んでいくとともに、行政機関相互で連携した支援策が講じれないか検討していきたい。</p>	